

4章：歴史意識
学習と教授に関するオランダのパーспекティブ
Historical Consciousness
A Learning and Teaching Perspective from the Netherlands

担当：池尻良平（東京大学大学院情報学環）

ikejiri@iii.u-tokyo.ac.jp

■著者情報

①著者名：Carla van Boxtel（アムステルダム大学 教授）

研究関心：歴史的推論、歴史の概念に関する学習など

備考：PhD で歴史教育の実践に関するプロジェクトを多数経験。



著書や論文も多く引用数も多い。詳細：<https://www.uva.nl/profiel/b/o/c.a.m.vanboxtel/c.a.m.vanboxtel.html>

■重要な用語

・ collective memory | 集合的記憶 ・ historical orientation | 歴史的な方向づけ

■議題

- ①歴史意識を、歴史的推論の認知的側面と社会・文化的側面の両方で説明可能なのは分かったが、両側面がどう接続するかは Boxtel の歴史的推論モデルでもやや不明瞭。どう接続するのか？
- ②「感情」が歴史的な問いを作る際の鍵になるというのは面白かった（非認知的能力のトレンドにも乗っている）が、「感情」と「認知」のシフト・バランスはどうすれば可能か

■イントロダクション（pp.61-62）

- ①本章では、歴史意識を文化的・歴史的現象としてではなく、時間の中で自分を方向付けるのに役立つ個人の過去に対する理解として、学習・教育の観点からアプローチする
- ②本章で扱う重要な問い
 - ・ 歴史意識の発達と言った場合、実際には何が発達するのか
 - ・ 学校内外での歴史教育は、歴史意識の育成にどのように貢献できるのか
- ③著者が考える歴史意識
=人が過去について考えたり理由付けをしたりする際の、歴史の関心、歴史的知識、

歴史の本質に対する理解、現在の人々の過去に対する関わり方などの統合的構成物
=過去を使って現在の自分について考えたり、未来の自分を想像したりする方法を探るもの

■教室における歴史的推論の研究：文脈、狙い、方法（pp.62-66）

（1）オランダのカリキュラムにおける歴史意識の影響（註：池尻が独自に設定した節）

- ①オランダの学校の正式な達成目標は、2001年の委員会の助言に基づいている
- ②歴史意識はこの目標の基礎となる主要な構成要素（Rüsen と Jeismann の出版物を参照）
 - 歴史意識=歴史的な思考・推論のスキルと年代的な参照枠を一貫して応用する能力
 - 影響の一部として、10時代の年表の枠組みで構成されるようになり、
各時代に特徴的な歴史的展開や現象（例：イスラムの台頭など）が含まれるようになった。
また近年、「現代における意義」に関する2つの目標が追加された
- ③しかし新カリキュラムは、歴史的解釈の実践的機能、つまり歴史的知識や理解が現在を理解し、
未来を方向付けるためにどのように使われるかという Rüsen の考えを、
あまり正當に評価していなかった（インスピレーションにはなっていた）

（2）著者が提案する歴史的推論モデルと歴史意識の関連性（註：池尻が独自に設定した節）

- ①教育研究には、道具的機能と文化的機能の2つがある（Biesta, 2007）
 - ・著者が目指す道具的機能＝生徒がどのように歴史を学び、生徒の歴史的思考や推論をどのようにして高めることができるかについて、実践者に洞察を与えること
例：設計原理、教育戦略、観察・評価手段など
 - ・著者が目指す文化的機能＝歴史教育の研究者や実践者に対し、歴史教育と学習の側面を違った角度から見て、新しい問題を見えるようにし、新しい解決策を考えるのに役立つアイデアやコンセプト、モデルを提供すること
例：「対話的な歴史教育」と「動的な遺産教育」というアイデアの概念化など
- ②著者が考案した、歴史的推論の3つのタイプ（研究の分析枠組みとして使われている）
 - 継続と変化のプロセスに関する推論、原因と結果に関する推論、
歴史的現象や時代の違いや類似性に関する推論
- ③上記の推論の構成要素
 - 歴史的な問いかけ、本質的概念やメタな歴史的概念を用いた時間関係や因果関係の構築、
歴史的な文脈の構築、歴史資料の批判的な吟味に基づく歴史の議論
- ④最近では上記のモデルに加え、歴史の関心、事実や概念や年代に関する歴史の知識、
歴史に対する信念など生徒が推論を構築したり、分析したりするために使う資源も追加
→これらの資源は、個人の中だけにあるわけではなく、集合的記憶によっても形成される

⑤著者の歴史的推論の研究にはいくつかのタイプがある

[プロセス研究]

・歴史的に考えることや推論することが何を意味するのかを説明できる

例：Logtenberg による、産業革命の入門書を読む時に出た自発的な問いと、その問い

が生まれた背景を分析した研究がこれに該当する

→歴史的な問いは過去の人々の行為を文脈化しようとする時に形成される

＝知識不足や認知的葛藤といった認知プロセスに基づいているだけではない

→この際、重要になるのが憤りや驚きの感情で、この感情を示した後に、

完全に理解できなかった歴史上のアクターの行動を文脈に沿って説明しようとした際に

歴史的な問いを出していた

[介入研究]

・タスクや教授法が歴史的推論の質に与える影響を分析するのに有用

[実験研究]

・歴史的推論を構成する各要素の相互の関連性の理解に有用

例：因果関係に関連する概念や方略について明示的な指導を受けた生徒の方が、

対照群の生徒に比べ、歴史の関心、因果関係の推論方略の知識、二次概念のスコアが

有意に高く、認識論的信念が高かった

→一方、トピックの知識や、事後のライティング課題の因果推論の質には影響がなかった

■集合的記憶と歴史的思考・推論の相互作用 (pp.66-67)

①歴史の教授や学習は、個人的・認知的なプロセスだけでなく、社会的・状況的な活動でもある

→生徒は、歴史教育を通じて過去についての理解と思考を深めるだけでなく、

自分が所属するコミュニティの歴史文化に参加した結果として、

過去についての理解と思考を深める。

→また、歴史を学ぶための学校の「道具」は、「集合的記憶」で形成されていることが多い

②Kansteiner による集合的記憶の説明

＝過去に関する表現を構成する知的・文化的な伝統と、これらの伝統を操作する記憶の生成者、

そのような人工物を使ったり、変換したり、無視する消費者の間の、相互作用の結果

③集合的記憶は教室に「存在」している

→教師と生徒が教室に持ち込む考えや、歴史の教科書や博物館の展示などの教育資源で表出

例：教科書における「壮大な物語 (grand narrative)」など

- ④歴史教師や博物館や遺産に関する団体で働く専門家は、生徒の集合的記憶の理解を高めたり（人々が特定の過去にどのように関係しているか等）、メディアや博物館や生徒が参加しているコミュニティにおける歴史の表現を批判的に検討する能力を高めようとしている
→ソースワークに関する研究が多いが歴史学以外の分野で作られた歴史の表現を調べる
課題の中で、生徒はどのように思考し、推論するかを研究することも今後は重要
- ⑤歴史意識＝時間を方向付けする能力と考えた場合、人々が過去の理解を、どのように現在の方向付けや未来の思考に利用しているかを研究することも喫緊の課題である

■歴史意識の構成概念に関する考察（pp.67-70）

- ①Pandel の歴史意識の多次元モデルの基盤となる3つの次元を参考にした、
歴史的推論と歴史意識の関係の考察

[時間]

- ・過去、現在、未来を識別し、出来事と発展に関する年表の中に歴史的事象を位置づける能力
→歴史的な時間を表現するための語彙や、その時代に特徴的とされる歴史的現象に関する知識が必要（「世紀」「時代名」など）
- ・著者らは、歴史文書や画像を提示し、より広範な歴史的現象や発展と関連づけさせた上で、それが構築された時代を決定させるという課題に、どのように取り組んでいるかを調査した
→文脈化を成功させるためには、関連する歴史的概念（冷戦や黄金時代など）や、ランドマークやターニングポイント（ベルリンの壁崩壊や奴隷制廃止など）に関する知識を中心に構成された歴史知識の、リッチな連想ネットワークが重要であることがわかった

[真実性 (reality)]

- ・事実とフィクションを見分ける能力
+歴史的事実は歴史的証拠に基づかなければならないという理解
- ・歴史的推論の構築だけでなく、歴史的推論の評価にも焦点を当てるべきである

[歴史性 (historicity)]

- ・物事は変化しうるが、同時に変化せずにとどまるものもあり、私たちが生きている世界は歴史の「産物」であるという理解
 - ・変化には様々な種類があり（政治的・文化的）、テンポやインパクトが異なる場合があり、アクターの意図しない結果となる場合があることを理解することが重要
 - ・歴史的な変化を理解するには因果関係を推論するだけでなく、意義を考えることも重要
- ②歴史意識を個人のコンピテンシーとして調査した場合、歴史意識の出現や表現しか見られない点は考慮しなければならない＝縦断的な調査が不足しているので今後の課題

- ③歴史的思考の「概念」と「方略」がどのように関連するかを明らかにすることが今後の課題
→歴史的推論の概念化は、一貫した一連の活動として説明可能なので、
歴史意識の研究でも有用

■結論 (pp.70-71)

- ①歴史意識＝生徒が過去・現在・未来について考え、推論する際に現れる理解
- ②歴史意識の概念は、歴史的思考の活動、歴史的思考の資源、生徒個人の意味づけ（現在の社会や自分や他人に対する理解、将来への期待など）をまとめた統合的な概念としてアプローチすると、歴史教育や歴史の学習・教育に関する研究に活用しやすい
- ③以下は今後研究すべき課題
 - 生徒が歴史的思考や歴史的推論を進める方法の調査
 - 歴史的推論における内容的知識や感情の役割
 - 生徒が過去の理解を使い、現在や未来を振り返る方法の調査